

対象	中学校 1 学年以上
教科	社会科
該当 単元	中学歴史 「日清・日露戦争と 近代産業」 (産業革命の進展) ・製糸工場で働く 工女とその一日
教科書	東京書籍等
掲載日	2018. 8. 17. 朝刊 南信総合版

赤や緑、…多彩な姿知って

世界の蚕集めた特別展

世界中に分布する多様な蚕を紹介する特別展「世界の様々な国のカイコと繭」（中日新聞社後援）が、駒ヶ根市東伊那の駒ヶ根シルクミュージアムで開かれている。二十六日まで、水曜休館。

（長谷部正）

欧州や中東、アジアなど世界のあちこち、さまざまな模様の蚕など、各国で飼育されている蚕三十種。さまざまな色や模様を持つ品種余を展示。緑色や黄色、赤色を帯びた蚕、ピロイドに似た光沢色に限定されがちな蚕のイメージ

駒ヶ根シルクミュージアム



「養蚕文化への理解を深めて」と来館を呼び掛ける中垣館長（駒ヶ根市で）

シを覆す多彩な姿が楽しめる。餌となる桑の実の色素を体内に取り込むことで、さまざまな色の蚕や繭ができる仕組みをパネルで解説。「日本の蚕が白い理由は遺伝子の突然変異によって桑の実の色素を取り込めなくなったから」など、興味深い記述が並ぶ。

特別展には、品種の保有数として世界一の規模を誇る日本の蚕研究の中心的役割を担う九州大をはじめ、京都工芸繊維大や東京農工大、信州大が協力。蚕の生態や伊那谷で盛んだった製糸業の歴史などを紹介する常設展示と合わせ、奥深い蚕の世界を分かりやすく伝えている。

中垣雅雄館長は「多種多様な蚕の展示を通じ、明治期から昭和初期の日本経済を支えた養蚕文化への理解が深まればうれしい」と話す。入場料は高校生以上三百円、小中学生百円。

（同）同館 0265（82）8381

問1：見出しに「赤や緑、…多彩な～」とあります。記事を読んで、様々な色の蚕や繭ができる仕組みを説明しましょう。

（ ）ことによりできる。

問2：日本の蚕が白い理由を記事からみつけ文を完成させましょう。

（ ）によって（ ）を（ ）から。

問3：蚕の品種の保有数として世界一の規模を誇る大学は何大学ですか。

（ ）

発展：自然界の桑の木を観察しても蚕は見つかりません。その理由を調べてみましょう。

【活用にあたって】

『古事記』にも記述があるほど養蚕の歴史は長いそうです。そんなことも関連させて学べるように、理科的な内容ですが社会科で設定してみました。柔軟に活用下さい。

日本の近代産業の礎を支えた養蚕業。とはいえ産業は急速に変容しました。蚕を見たり育てたりしたことのある児童・生徒は少ないでしょう。それでも日本では蚕といえは白い幼虫を想像するのが一般的。蚕を知っている人には、まずこの記事の写真に驚くことでしょう。

この記事で蚕に興味をもってもらい、工女たちの劣悪な労働環境を今日の働き方改革なども含めながら考えていくと、深みのある学習になると思います。

解答例

問1：餌となる桑の実の色素を体内に取り込む

問2：遺伝子の突然変異によって桑の実の色素を取り込めなくなった

問3：九州大学

発展：解答例(各自で調べたことでよいと思います)

野生回帰能力を完全に失った唯一の家畜化動物(昆虫)なので、葉につかまることもできず、自然の中では生きられないから。